

## 10. 道路ネットワークの強化について

### 1) 伊那木曽連絡道路開通に対する期待・不安

伊那木曽連絡道路の開通に対する期待や不安をアンケート調査にて尋ねたところ、高校生では、「国道19号の交通量が増加する」の回答が52%であり、交通量増加による危険性を危惧している。一方、高校生の保護者および商店主は「伊那地域との文化交流が盛んになる」の回答が最も多く開通への期待が伺える。また、商店主においては「木曽地域への観光客が増加する」「伊那地域へ人口が流出する」の回答も多く、観光客増加に対する期待があるが、定住人口減少という不安も危惧していることが分かる。

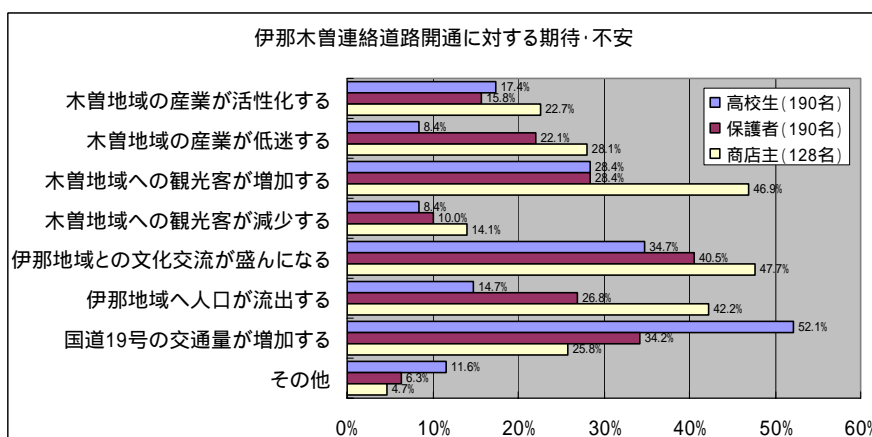


図 10-1 伊那木曽連絡道路開通に対する期待・不安(複数回答)

### 2) 伊那木曽連絡道路の有効活用

伊那木曽連絡道路の有効活用方法を尋ねたところ、「連絡バスの開設」の回答が最も多い。一方、高校生の保護者、商店主においては、「木曽・伊那地域をまたがる観光ルートの設置」の回答がともに50%を超えており、観光に対する期待が大きいことが伺える。

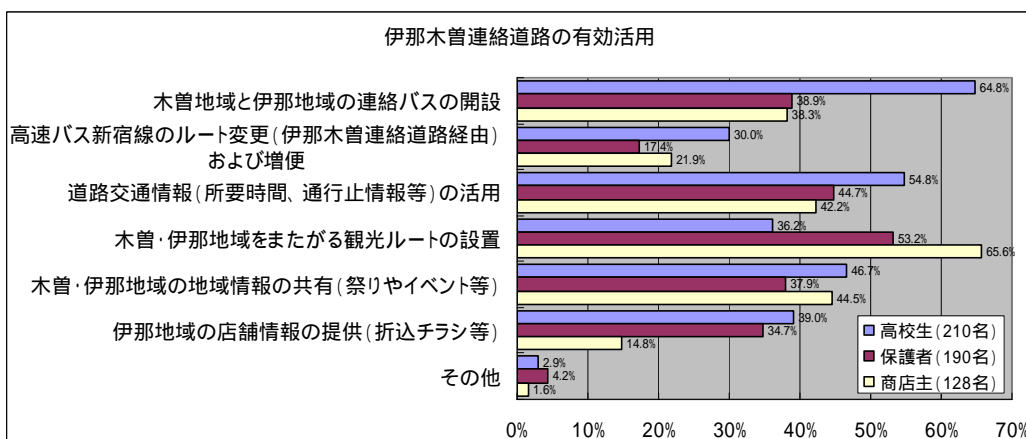
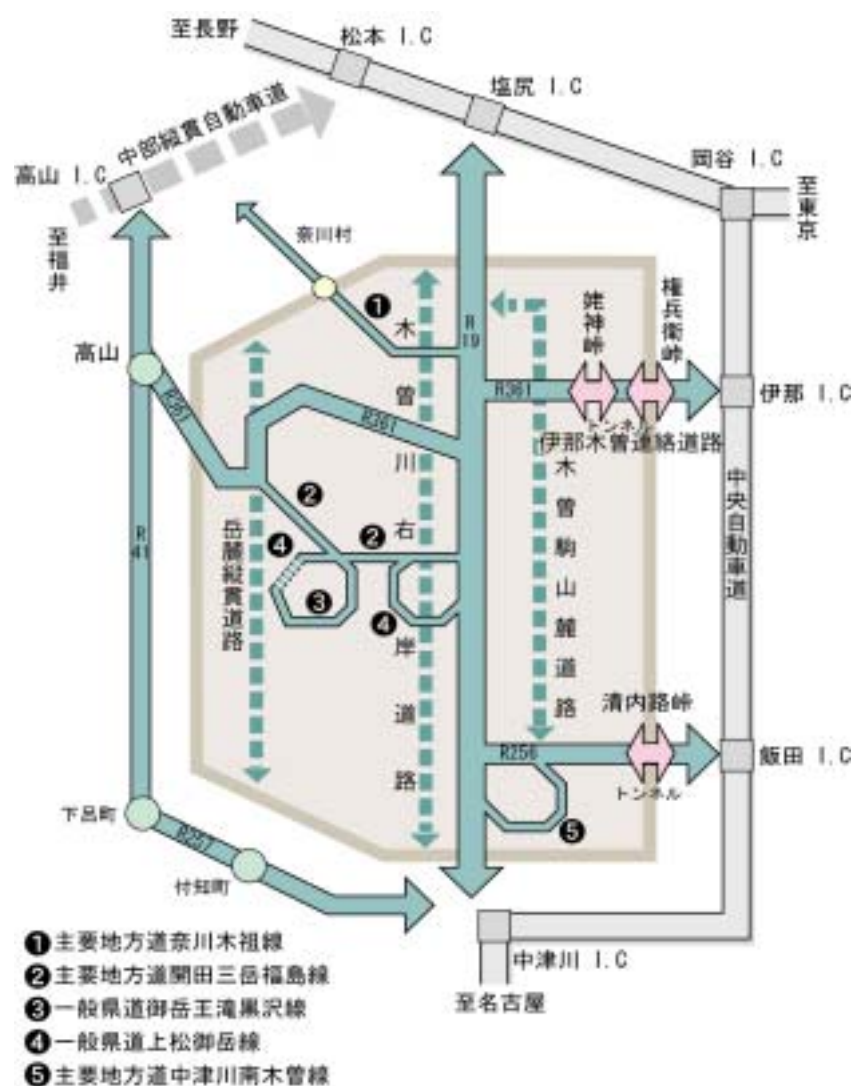


図 10-2 伊那木曽連絡道路の有効活用(複数回答)

### 3) 今後の道路ネットワークの強化

今回の伊那木曾連絡道路開通に伴い、平成12年に開通した国道256号清内路峠トンネルとともに木曾地域交通ネットワーク構想における東西軸としての中央自動車道との接続機能の強化が図られることとなる。

今後の木曾地域の道路ネットワークの強化策として、国道19号および木曾川右岸道路等の南北軸の体系的整備を図るとともに、歴史的資源、スポーツ、レクリエーション資源等を一体的に機能させる広域ネットワークの形成を図る必要がある。



資料: 木曾広域行政事務組合「木曾地域ふるさと市町村圏計画」平成3年

図 10-3 木曾地域交通ネットワーク構想